

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	国際教養学科			
科目名称	英文法基礎Ⅰ						授業形態	演習		
科目コード	590092	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験担当教員			Active・L	○
担当教員名	水島 孝司							ICT活用		
授業概要	この授業の目的は、大学生の日常のコミュニケーションに役立つ英語を学びながら、英文法・語法の基礎知識を確実に身につけるのを支援することである。授業で扱う文法項目の大半は英検3級レベルのものであるが、語彙や英語で表現する内容は大学レベルのものが中心となる。英文法・語法の基礎を「音声を何度も聞いて、リピートして、書いて」、また「失敗を恐れずに人前で英語を使って」マスターしたいと思う学生に受講してほしい。									
関連する科目	英文法基礎Ⅱ									
授業の方法と進め方	・ 授業は教科書に沿って進めるので、事前に該当のユニットを予習しておくこと。 ・ 原則として、1回の授業で1つのユニットをこなす。 ・ 第7回以降の授業では毎回、学生の1分程度の英語スピーチで始める。 ・ 授業のはじめに、Expressionsの表現を日本語から英語に直す練習をペアになって行い、毎回、自己評価してもらう。 ・ 学生を指名しながら問題の答え合わせをしていくので、予習をしっかりと行うこと。(指名されてから、問題を解いたり、辞書を引くことのないように)									
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法、英語スピーキングテストなどに関する説明など）									
第2回	教科書Unit 1（be動詞－現在形）									
第3回	教科書Unit 2（一般動詞－現在形）									
第4回	教科書Unit 3（be動詞－過去形）									
第5回	教科書Unit 4（一般動詞－過去形、規則変化）									
第6回	英語スピーキングテスト ＊個別に実施									
第7回	学生のスピーチ 教科書Unit 5（一般動詞－過去形、不規則変化）									
第8回	学生のスピーチ 教科書Unit 6（命令文、There is [are] ～）									
第9回	学生のスピーチ 教科書Unit 7（itの特別用法）									
第10回	学生のスピーチ 教科書Unit 8（注意すべき疑問文）									
第11回	学生のスピーチ 教科書Unit 9（進行形）									
第12回	学生のスピーチ 教科書Unit 10（未来形）									
第13回	学生のスピーチ 教科書Unit 11（助動詞－1）									
第14回	学生のスピーチ 教科書Unit 12（助動詞－2）									
第15回	まとめ（期末試験と同じ出題形式で作成した練習問題を解くなどして、学期中に学習した内容を復習する）									
授業の達成目標	・ 英検準2級合格に必要な英文法・語法の基礎知識を身につける。【知識・理解】 ・ 教科書のExpressionsにある日本人を素早く英語に直すことができる。【汎用的技能】 ・ 人前で英語を話すことに慣れる。【態度・志向性】 ・ 授業で学んだ英語の一部を日常会話や英文メールなどで使うことができる。【汎用的技能】									
学修成果との関連	2.自分の言葉で表現できる能力を有する。／4.多文化・異文化に関する基本的知識を有する。									
授業時間外学習【予習】	・ 教科書のExpressionsにある英文を音声で聞いて、「正確に」リピートできるように練習する。(15分程度) ・ 教科書のExpressionsにある英文を音声で聞いて、「速く」「正確に」書けるように練習する。(15分程度) ・ 教科書のExpressionsにある日本人を素早く英語で言えるように練習する。(15分程度) ・ 教科書の「基本問題」「発展問題」すべてに解答する。(45分程度) ・ 1分程度のスピーチを書いて、その7割以上を原稿を見ないで話せるように練習する。(90分程度)									
授業時間外学【復習】	・ ペアワークでスムーズに口から出てこなかった英文を音読筆写する。(15分程度) ・ 練習問題で間違えた英語を音読筆写する。(15分程度)									

課題に対するフィードバック	・「基本問題」「発展問題」への答えに対して必要な解説を加える。 ・スピーチの内容に対して口頭でコメントする。
評価方法・基準	期末試験(35点)、英語スピーキングテスト(15点)、英語スピーチ(10点)、参加度(30点)、自己評価(10点)
テキスト	『大学生のためのコミュニケーション英文法（改訂4版）』（水島孝司ほか著、2024年、南雲堂）
参考書	随時、授業で紹介する。
備考	・「音声を何度も聞いて、リピートして、書いて」英語の基礎力を強化したいと思うだけでなく、それを毎週確実に実行する意志のある学生に受講してもらいたい。 ・毎回、英和辞典を持参すること（紙、電子辞書どちらでもよい。教室に備え付けの辞書を使用するのでもよい） ・英語の辞書を丁寧に引く（読む）習慣を身につけてほしい。 ・英検2級に合格している学生、および短大入学時のプレースメントテストで英検2級程度以上の英語力があると判断された学生の受講は原則として認めない。